

名誉病院長就任のご挨拶



日野病院名誉病院長 井上幸次

この4月1日より、玉井嗣彦名誉病院長が退任された後を受けて赴任いたしました井上幸次（いのうえ よしつぐ）です。よろしくお願ひ致します。

もともとは大阪の出身で、20年前に鳥取大学の眼科教授として赴任するまでは、鳥取県とは縁もゆかりもない身でした。日野のことも、もちろん知りませんでした。実は2000年に鳥取県西部地震があった時の震源であるということだけはニュースで聞いて頭の片隅には残っておりました。その時の地震は大阪にいた私も体感して、阪神・淡路大震災と同じマグニチュードであると聞き及びましたが、それでも亡くなった方がおられないということが非常な驚きで、よほど住んでいる人が少ないんだ、と思ったことを覚えております。

鳥取大学に来て以来、そういった都会人特有の偏った見方は徐々に改まり、大阪にいた時は決して体験することはなかった地方の状況を知るに及んで、人口の少ない地域での医療がいかに大切であるかを実感しておりましたが、他にもいろいろなことが重なって、大学をやめた後も、大阪に帰らずに鳥取県に残ることにいたしました。勤め先を選ぶにあたって、月1回ではありますが、20年間ずっと日野病院で白内障手術をさせていただいていたこと、そしてそれが自分の中で決して違和感とならず、結構なじむものになっていたことが、大きな要因になったと言えます。要するに、それだけご縁があったということなのでしょう。

私は眼科医なので、人の命を救うことはできません。ただ、「見える」ということは、特に高齢者の方のクオリティ・オブ・ライフを支える上で大変重要です。ですから、眼科医としての務めをしっかりと果たすことで、住民の皆様に豊かな生活を届けることに一役買えると思っております。人の老後を豊かにすることによって、それで自分の老後も意義あるものにできれば、「日の名残り（The Remains of the Day）」もまたよしと思っておりますし、「日野(病院の)名(が)残り」につながればと思っております。

玉井前名誉病院長は実に21年の長きにわたって、日野病院に貢献してこられました。到底それほど長く勤められませんが、私なりに、日野病院、そしてこの地域の医療に微力ながら貢献いたしたく頑張らせていただきます。

